

(代表質問)

質問日	令和3年6月3日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	3	会派名	公明党	議席番号	34	氏名	黒田 豊
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 新型コロナウイルスワクチン接種について	<p>先月より、本市においても80歳以上の市民に新型コロナウイルスワクチン接種が始まっている。今後、79歳以下、順次接種券の発送、予約、接種と予定されているが、一つの目標として、7月末までには65歳以上の市民全員の接種が完了することとしている。そこで、そのための課題等について以下伺う。</p> <p>(1) 65歳以上の高齢者全員が7月末までに完了するということだが、その前提条件について伺う。</p> <p>(2) 医療体制及び歯科医師による接種の考え方について伺う。</p> <p>(3) 一般接種が実施される際、社会福祉施設、保育、学校等従事者への優先接種の考えはないか伺う。</p> <p>(4) 今回、東京都、大阪府に自衛隊による大規模接種センターが設置され、東京都では最大1日1万人の接種を想定している。そうした中、今回、この大規模接種センター設置を、都道府県さらには政令指定都市まで拡大し、希望するところに配置可能とされることが公表された。そこで、本市においての大規模接種センター設置についての考えを伺う。</p>						鈴木市長
2 行政区再編について	<p>昨年9月28日、全員協議会採決により行政区再編が大きく前進し、行財政改革・大都市制度調査特別委員会においてさらに議論され、昨年度末には6つの区割り案まで収れんされた。そして、新年度に入り、新たな委員の下で、令和5年2月議会での条例案採決まで、熱心な議論が展開されることになると思う。そうした中、本市の市民協働や住民自治の一翼を担う自治会である、三方原地区自治会連合会からは中区への編入要望、天竜区自治会連合会からは天竜区単独要望、そして、浜松市自治会連合会からは7区の区自治会体制の分断は行わないなど、今後の行政区再編作業に少なからず影響があると思われる申入れが提出されている。今後、現状の6つの区割り案から一つの案に集約するための焦点は、市民サービスを低下させないことなど持続可能な行政組織の構築であり、そのための組織再編であると考えている。今後は、天竜区の在り方や区の数、区役所の位置など議論となると思うが、具体的な議論は特別委員会の進捗を注視することになる。そこで、当局の持続可能な行政組織の構築についての基本的な考えを伺う。</p>						鈴木市長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>3 スポーツコミッションとビーチ・マリンスポーツ大規模大会誘致等について</p>	<p>東京オリンピックの開催に向け、様々な意見が報道されているが、オリンピックに向け血のにじむような努力を重ね、オリンピックのために全ての時間を費やしているアスリートのことなどを思うと、是非とも実施すべきであるとも思う。また、全国でもオリンピックの準備等に、本市も含め予算を傾注している地方自治体が数多く存在する。しかし、私たちにはアフターオリンピックに向けての準備も必要である。そこで、オリンピック以降の本市のスポーツ施策について伺う。</p> <p>(1) 本市にスポーツコミッション担当課長が配置されて以降、オリンピック・パラリンピックへの対応のほか目立った成果が上げられていないのではないかと。そこで、オリパラ以降のスポーツコミッションについての考えを伺う。</p> <p>(2) 新ビーチコートオープンに向けた大会誘致の考えについて伺う。</p>	鈴木副市長
<p>4 公益財団法人浜松市スポーツ協会について</p>	<p>浜松市体育協会が浜松市スポーツ協会に名前を変えたが、今後の事業や期待について以下伺う。</p> <p>(1) スポーツ振興課で実施しているジュニアスポーツの事業などを浜松市スポーツ協会に移管するなどし、本市と浜松市スポーツ協会の役割分担を明確にし、浜松市スポーツ協会の強化を図るべきと考えるが伺う。</p> <p>(2) 今年度から名前が変わったが、今後において浜松市スポーツ協会に対する期待について伺う。</p>	鈴木副市長
<p>5 誰一人取り残さないために (1) 障害者外出支援助成券（バス・タクシー券等）について (2) 希少疾患への対応及び周知について (3) 養育費確保支援事業について</p>	<p>(1) 通称、障害者バス・タクシー券の配布対象者は、特に制度が必要ではない人、さらに手厚い制度を希望する人がいるなど様々であり、現行のような一律支給を見直し障害の種別ごとに検討すべきときが来ていると思う。そこで、特に必要とする障害者に手厚くするなど外出支援助成券交付事業の運用見直しを図り、必要度の高い種別に手厚い制度とすべきと考えるが伺う。</p> <p>(2) ごくまれな疾患であるがゆえに、社会でも認知されない例えば、起立性調節障害（OD）、高次脳機能障害、脳脊髄液減少症などの患者は、社会的に正しく認知されないことによって、誤解を招き、「やる気が感じられない」「まじめに取り組んでいない」など無理解による間違った評価に本人・家族が苦しんでいる。そこで、これらまれな障害や病についての対応及び周知について伺う。</p> <p>(3) 今年度から、養育費の確保を支援し、経済困窮の解消に寄与するという事で新規事業がスタートしたが、周知方法と期待することについて伺う。</p>	<p>山名副市長</p> <p>〃</p> <p>鈴木こども家庭部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>(4) 無戸籍者について</p> <p>(5) スクールカウンセラーの相談内容等について</p> <p>6 高齢者の生活支援について</p> <p>(1) コロナ禍の介護の現状について</p> <p>(2) 人生会議手帳について</p> <p>(3) 超高齢社会における地域交通の確保について</p> <p>(4) 高齢者雇用の促進について</p>	<p>(4) 現在、国において民法改正が検討されており、無戸籍の原因ともなっている民法の「嫡出推定」制度の見直しについて、法制審議会の専門部会は2月9日、中間試案をまとめた。本市においても存在すると聞いているが現状を伺う。</p> <p>(5) スクールカウンセラー（SC）の昨今の相談内容から見える課題と考察、手立てについて伺う。</p> <p>(1) リモートワークが定着する中、在宅介護の割合が増加していると聞いているが状況を伺う。</p> <p>(2) 近年、アドバンス・ケア・プランニングによるケアが主流になりつつある。これは、将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者を主体に、その家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者の意思決定を支援するプロセスのことであるが、そうした中、本市では令和元年度に人生会議手帳を作成した。そこで、その中身について、また、周知の課題などについて伺う。</p> <p>(3) 地区社協による生活支援としての運行が注目を集めている。ただ、車両の確保や運転者の責任問題、保険など課題もあり導入をためらう地区社協もあると聞いている。そこで、これらの課題解決についての考えを伺う。</p> <p>(4) 「70歳現役都市・浜松」共同宣言をした本市であるが、そのためには企業の協力が不可欠である。そこで、その取組と、シルバー人材センターとの連携強化について伺う。</p>	<p>奥家市民部長</p> <p>花井教育長</p> <p>山下健康福祉部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>藤野産業部長</p>
<p>7 公共交通について</p>	<p>昨年、浜松市総合交通計画が計画中間年として見直しが行われた。しかし、見直しといっても、公共交通環境に大きな変化はなく、強いて言えば、Ma a Sや自動運転の普及が今後どのように進展していくかであると思う。しかし、超高齢社会の中で、公共交通の必要性は増すばかりである。そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 浜松市地域公共交通網形成計画では、公共交通の現状は市街地が郊外へ拡大を続けており、「市街地外部相互間等の移動ニーズに十分に対応できていない可能性がある。」と記載されている。市内の拠点間を結ぶ環状方向のネットワークが不足していると感じるが、その現状及び具体的な計画があるか伺う。</p> <p>(2) 地域交通の維持に財政投入するという事についてどう考えるか伺う。</p> <p>(3) 本市の公共交通には様々な課題があり、十分な取組ができていないのではないかと感じている。そこで、公共</p>	<p>長田副市長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>8 防災、減災、国土強靱化のための5か年加速化対策と国道1号浜松バイパス整備について</p> <p>(1) 防災、減災、国土強靱化のための5か年加速化対策について</p> <p>(2) 国道1号浜松バイパスの立体高架化について</p>	<p>交通に係る施策を迅速に推進していくために、どのような体制を考えているか伺う。</p> <p>(1) 本年4月から「防災、減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」がスタートしているが、そこには①激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策、②予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策等の推進がポイントとなるが、以下伺う。</p> <p>ア 風水害の激甚化への対応の中で「流域治水」との考えが示されているがその考えについて、また、令和2年9月に天竜川（下流）流域治水協議会が発足し、本年3月29日の第3回協議会で計画が策定されたが、その内容について伺う。</p> <p>イ 予防保全型インフラメンテナンスへの転換が示されているが、本市は約5800橋に及ぶ橋梁を抱えており、従前から橋梁メンテナンスに力を注いでいる。そこで、その現状と今後の取組について伺う。</p> <p>ウ 三遠南信自動車道整備について、今年度も国からの補助が確定したようだが、災害対策としての交通ネットワークの維持が挙げられ、特に高規格道路のミッシングリンク解消が重視されている。そこで、三遠南信自動車道の進捗状況と今後の取組について伺う。</p> <p>(2) 本年2月24日、国土交通省第4回中部地方小委員会において、長年懸案となっている国道1号浜松バイパスの中田島砂丘入口交差点から長鶴交差点までの整備方針案3案が示されたが、現在の状況と今後について伺う。</p>	<p>長田副市長</p>
<p>9 国道1号浜松バイパス沿いへの道の駅設置について</p>	<p>国道1号浜松バイパス沿いへの道の駅設置については、我が会派も長年政策要望や代表質問、さらには国土交通大臣への要望を行うなど、積極的に取り組んできた。また、地元においても、地域活性化につながるなど期待も大きく、地元新津地区としても「新津道の駅検討委員会」が昨年発足し、4月26日には新津地区自治会連合会・新津道の駅検討委員会として道の駅設置について市長宛てに要望を行ったところである。そこで、遠州灘海浜公園地区近接地への道の駅設置についての考えと地元を期待することを伺う。</p>	<p>長田副市長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>10 動物愛護と多機関連携による共生に向けて</p>	<p>本年2月、議員有志で「浜松市動物と共生するまちづくり促進議員連盟」を発足し、地域猫問題や多頭飼育問題に真摯に向き合い、動物と共生するまちづくりに向け当局との懇談会やボランティアとの意見交換会などを開催し活動をしている。そこには、様々な情報が寄せられ、これまでも議会質問等でも取り上げてきたが、環境省より新たな指針も公表され大きく動き出そうとしている。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 環境省は本年3月「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン」を策定し公表したが、本市の認識を伺う。</p> <p>(2) ガイドラインの副題には「社会福祉の動物愛護管理と多機関連携に向けて」との副題も示されているが、猫等の多頭飼育問題は、野良猫問題等の域を超え、その領域はもはや動物愛護の問題ではなく人や地域の問題へと行政課題は複合化し、その解決のためには地域福祉・社会福祉、警察など多機関連携が求められている。そこで、本市の考えと今後の取組について伺う。</p> <p>(3) 本市には「浜松市野良猫との共生推進協議会」要領や関連細則が定められ運用されているが、地域猫の定義や市・獣医・ボランティアなど市民、3者の明確な役割が示されておらず、活動が曖昧なものとなっている。そこで、本市独自の条例制定や、地域猫に関するガイドラインを策定し、特に地域猫問題は3者の協働事業であることを明示し、活動の中心を浜松市動物愛護教育センターが担うようにすべきと考えるが伺う。</p> <p>(4) 浜松市動物愛護教育センター業務は動物愛護教育事業だけではなく、多頭飼育問題など人の問題として業務課題が複合化している。そこで、この新たな行政課題にも対応できるよう浜松市動物愛護教育センター組織を強化する必要があると、現在の第2種事業所から第1種事業所へと組織整備を図るべきと考えるが伺う。</p>	<p>長田副市長</p>
<p>11 中心市街地の公共空間利活用について</p> <p>(1) 新川モールの整備によるにぎわい創出について</p> <p>(2) 鍛冶町通りのホコ天実施について</p>	<p>(1) 新川モールが整備されるが、にぎわい創出のためにはこれまで本市にはないものを企画すべきと考える。そこでにぎわい創出の手段としてどのようなものを検討しているのか伺う。</p> <p>(2) 昨年度から、街中にオープンカフェが展開されているが、より市民に街中でオープンカフェを楽しんでもらうために面的な取組も重要である。そこで、鍛冶町通りを歩行者天国にすれば、さらに効果的に利用し楽しんでもらえることになると思うが、実施について伺う。</p>	<p>藤野産業部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>12 アフターコロナにおける観光施策の推進について</p> <p>(1) ヘミングウェイ関連施設の誘致について</p> <p>(2) ナショナルルート指定等について</p> <p>(3) ビーチコートを中心としたにぎわい空間の創出について</p> <p>(4) 世界のフェスティバルの誘致について</p>	<p>コロナ禍により、観光誘客も激減しているが、アフターコロナに向け交流客数のV字回復が必要である。そこで伺う。</p> <p>(1) 浜名湖キューバヘミングウェイカップが今年度もコロナの影響で延期が決定しているが、横浜や江の島、大阪には常設のヘミングウェイレストランなどが運営されている。そこで、浜名湖ブランドイメージの向上策として弁天島海浜公園等にヘミングウェイ関連施設の誘致ができないか伺う。</p> <p>(2) 浜名湖周遊自転車道（通称：ハマイチ）の整備状況と、ナショナルサイクルルート指定に向けた取組について伺う。</p> <p>(3) 令和6年度に向け、ビーチコート整備が始まっているが、人が集いにぎわう地域とするためにも、面的な整備は欠かせない。そこで馬込川のみずべリングや親水公園設置についても大いに検討し、ビーチコートを中心としたにぎわい空間の創出を検討すべきと考えるが伺う。</p> <p>(4) トゥモローランドやエレクトリック・デイジー・カーニバルのような世界3大フェスや日本最大のロックフェスと呼ばれるロック・イン・ジャパン・フェスティバルは20万人、40万人規模の音の祭典で、世界の若者の熱狂的な支持を集めている。そこで、今後の音楽・観光施策として、世界のフェスティバルの誘致に動き出す必要があると考えるが伺う。</p>	<p>鈴木観光・ブランド振興担当部長</p>